



冬休みにしておくこと

今週と来週の進路通信にも掲載しますが、懇談資料として冬休みにしておくべきことをまとめておきたいと思います。各家庭で確認の上、有意義な冬休みにしましょう。

① 私立高校の願書を入手しておこう

高校によってはオープンスクール等で願書を配布していることもあります。手元に願書がない人は冬休み中（または懇談期間中）に願書を取りに行きましょう。入手した願書は中身をしっかりと確認し、下書きを家で行います。（くれぐれも清書しない、検定料も振り込まない！）インターネット出願を採用している高校の場合は、各校のホームページで募集要項を確認し、出願の手順を把握した上で、出願情報を入力し、「申込内容確認書」（学校によって名称が異なる場合あり）を提出してもらいます。

始業式の日に願書一式を提出してもらいます。個人報告書は学校で先生が記入しますので、何も書かずに提出して下さい。提出はすべて、クリアファイルに入れて行きます。（懇談時に配付）

② 自己申告書の下書きを完成させよう

公立高校の受検には自己申告書が必要です。A4裏表1枚です。2学期中に学校で1度書いては見たが、必ず保護者の方に見てもらうようにしましょう。保護者の方に確認してもらった後、冬休み中に家で下書きを完成させます。誤字脱字等の最終チェックは学校で行いますが、内容はほぼそのまま出願するつもりで完成させてきましょう。

保護者の皆様

自己申告書の内容の確認を冬休み中に必ず行ってください。前述の通り、学校にて最終点検は行いますが、内容は保護者の方の確認を最終とさせていただきます。自己申告書は公立高校入試において、ボーダーゾーンに入った場合の合否判定に使用されます。よろしくをお願いします。

自己申告書の記入に関して注意すること

- ①一人称は「私」で書きましょう。 ②欄の8割以上を埋めて提出しましょう。
- ③「だ・である（言い切り）」か、「です・ます（丁寧）」のどちらかに統一しましょう。
- ④話し言葉ではなく、書き言葉で書きましょう。
- ⑤構成に気をつけて書きましょう。（迷ったら国語便覧を参考にしましょう）

とにかく、相手の立場に立って文章を書くことが大切です。どのようなことばで、どのような順番で書けば相手を読みやすいのか、よく考えて書きましょう。そして、清書する前に必ず推敲（見直し）しましょう。

③ 過去問を解いてみよう

冬休みに何といっても大切なのは学習です。高校入試に向けて、まとまった時間が取れる最後の長期休暇です。2学期中に1～3年生の一通りの復習は終わっていると思います。すでに解き始めている人はいいのですが、そろそろ過去問に挑戦してみましょう。過去問はオープンスクール等でもらえる学校もありますが、書店にも学校別で数年分の過去問が販売されています。冬休み中に、自分が受験する学校でどのような問題が出題されるかを確認しましょう。中には力試しのために直前に解きたいという人がいるかもしれませんが、そのやり方はおすすめできません。万が一、思った点数が取れなかった場合、挽回する時間がありません。冬休み中に問題の傾向を把握した上で、自分に足りない部分を補う学習をするのがおすすめです。

④ 実際に志望校へ行ってみよう

私立高校は願書を取りに行きますので、その高校へ実際に足を運ぶことになります。しかし、公立高校の願書は中学校で準備をしますので、願書を取りに行くということがありません。その高校がどこにあり、3年間通える場所にあるのか、周辺の雰囲気や環境なども含めて必ず一度は見に行くようにしましょう。

また、出願の際には、当然その高校へ願書を提出しに行きます。道に迷って締め切りの時間に間に合わないというようなことにならないように、その高校への行き方や自宅からの所要時間などを調べるという意味でも、この冬休みの間に志望校を訪問しておきましょう。なお、中に入ることは当然できませんが、学校の雰囲気をつかむためには必ず必要な訪問です。

冬休みの宿題

- ①願書の下書き ②自己申告書 ③面接がある人は面接練習 ④その他必要書類作成等